

公益財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 34
2015 Jun

平成27年6月15日発行
編集 山下 薫

地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する



いのちの森通信

発行/ 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

韓国への哲学対話の旅

いのちの森文化財団副代表理事 塩澤研一

4月24日～5月2日までの10日間、韓国の哲学者の方たちとの対話集会に参加し、またハンサリム運動の創始者や現在活動されている方々との交流など有意義な時を過ごすことができた。行く前日になって早稲理が高熱を出し、一時は韓国行をあきらめることにしたが、当日になって熱が下がり始め、意を決して一時間遅れで関西空港に向かった。済州島を経て光州に4時過ぎに到着。円光大学教授の朴先生方が迎えをして下さった。

この真剣さほどこれから来るのだろうかと思いを巡らしたが、私たち日本に於いては韓国のように民衆が時の権力と戦い抜いてきた経験がない。光州の民主化運動は日本のようにただデモをするというような生易しいものではなく軍隊と銃器を構えて戦うという命がけのものであり、殺された学生や市民の数は千人を超えるも、その正確な数字は現在も把握できていない。光州を離れる前に後の政府が光州事件は民衆の正しい民主化運動として評価し、建設した広大な墓地と記念館を訪ねた。

悲しみの波動が私を一気に襲い、懺悔と連帯の思いを強くした。若い学生達が命を懸けて戦い抜いた歴史は重い。心からの祈りを捧げ墓地を後にした。夕方、光州を離れソウルのモシムとサリム研究所へと向かう。ここでのいのちの森構想について講演をさせて頂く。金泰昌先生は韓国の州知事の会合に出席され記念講演をされた。

研究所ではハンサリム運動についての意見交換など夕食を交えながら和やかな雰囲気の中で行われた。その実践力の凄さには驚くことばかりであったがこれを支えている生命思想こそがその強さの源ともいえる。翌日は若い青年二人がハンサリム発祥の地まで車で2時間半ほどのところであるが朴先生と

この生命思想はおそらく東アジアの中心となる哲学として発展していくであろうと予感している。光州で行われた哲学対話の会場となったのは昨午水輪を訪ねられたキム牧師が運営するキリスト教の教会であった。キム牧師は韓国で起こった民主化運動で時の政権に逮捕され牢獄の中で聖書に出会い、牧師を志したという。光州の山の中に入り、農業と鶏を飼い、それを売って教会を建てたとのこと。随分と時間を費やしたと思うが、ネクタイに背広をきた牧師ではなく農民とともに働いている。今回お会いした方々は同じように民主化運動の先頭に立ち、様々な辛苦を体験しながら現在も活動の先頭に立っている。北京大学からきたと

同行する。ハンサリムの創始者は3名おられるとのことであるが、すでにお二人は他界されておりキムさんが応対して下さった。83歳とは思えない矍鑠とした紳士で流暢な日本語と文章に書かれた達筆な日本語の文字は、まさしく人格を表しているといえよう。



韓国にていのちの森構想の講演を行う

さて、翌日は弥勒寺を訪ねる。この発掘も

去る5月16日、いのちの森文化財団の教育文化施設2棟が竣工しました。「森のいずみ」と命名した施設は高齢者をはじめとした生きがい創造事業の会場として当財団の施設として運用し、「森のこもり」と命名した施設は青少年の教育施設として運用する計画です。毎年行われるサマーチャレンジボランティアを始め当財団の社会教育への支援をされる方々の滞在施設としても運用を計画しています。



宮島阿蘭梨による竣工式神事

副代表理事 塩澤研一

当財団の教育文化施設が竣工

去る5月16日、いのちの森文化財団の教育文化施設2棟が竣工しました。「森のいずみ」と命名した施設は高齢者をはじめとした生きがい創造事業の会場として当財団の施設として運用し、「森のこもり」と命名した施設は青少年の教育施設として運用する計画です。毎年行われるサマーチャレンジボランティアを始め当財団の社会教育への支援をされる方々の滞在施設としても運用を計画しています。

竣工式には高野山の阿蘭梨である宮島基行師による竣工式の他、太鼓の「梵天」による華麗な演奏を始め実習生のボーミック雄太さんの唱歌、畑のスタッフ実習生による「ソーラン節」の踊りなど、素晴らしいお祝いの演奏が行われ、続いての祝賀会となりました。

総勢170名の参加を頂き、また大勢の方々からお花、お祝い、ご祝儀などを頂き感謝に絶えません。本当にありがとうございます。卒業生と親御さん、卒業者と親御さんなどたくさんの方々がお祝いに駆けつけて頂き、心より御礼申し上げます。

5年間にわたる事業計画の中で、開設された施設ですが、様々な法的な制限があり当初計画していた「特別養護老人ホーム」として開

きを心底体験させて頂いた。帰国後金泰昌先生と山本編集長はそのまま財団主催の哲学散歩講座で4日間滞在された。今回約2週間に及ぶ哲学対話の旅は10年分の学びをさせて頂いたと感謝している。金泰昌先生と山本編集長には本当にお世話になった旅であった。さらに韓国での旅を何から何までお世話頂いた朴孟珠教授には心より御礼申し上げる。

同じく固体生命である 野獣と人間の 共通点と相違点

——いのちの森での第一回哲学散歩は意味のある共感をもって終わりました。第一回の哲学散歩を通して思い感じたことは何でしょうか。

金泰昌 早朝(午前4時頃)の森は暗闇に包まれていました。そこでは目に見えない宇宙生命の音魂がヒソヒソと、澄まされた耳に聞こえ、胸がドキドキしました。真昼の森は光輝く諸々の個体生命の実相が目に見えました。多種多様ないのちたちのハーモニーが表す究極の美を目撃しながら胆がワクワクしました。

そして夕方の森は黄昏とともに宇宙生命と個体生命の相関運動が一晩の休息を迎えつつ魂がフカフカするのを感じました。

いのちの森はいつも本当に素晴らしい。どなたでもこのすばらしさを味わってほしい。

「水輪」は、日本と東アジアについては世界の平和(響和)と共創共創へ向け、歴史的に命運を決する要衝の一つとなるかもしれない。

今回は、同じく個体生命である野獣と人間の共通点と相違点についても対話しました。

生きものの進化は微生物から人間になるまで長年月を経れており、人は母胎にいる間に生物進化の過程を反復すると言われています。

生命という意味では微生物とすら人間はなんらの差別もありません。平等です。

わたくしはかつてヒマラヤの聖者からこんな話を聞いたことがあります。

ライオンの親は生まれた子供たちを崖の上に連れていきます。そして、崖の下へ突き落とすというのです。自力で元の場所まで登つ

てこれた子供だけが選ばれて育てられます。

これが種の保存のための、本能的な野獣の掟なのです。大きく言えば大宇宙のいのちの営みとも根拠ともいえるでしょう。

ライオンは生きていくために他の動物を獲って食べます。草食動物で病弱であったり老齢であったり身体障がいをもつて種の保存の役割を果たしにくくなったものは、全体のいのちの循環を成し遂げる為に、自分を捧げるようになつていくのです。弱肉強食は野獣の世界のしきりです。

人間も動物ですから、生きる為に食っていくかなければなりません。では人間の世界も、本能的な弱肉強食が大宇宙のいのちの営みになつた状態なのではないでしょうか。そうではありませぬ。人間と野獣は基本的にいのちとして同じだけれど、いのちと与えらるる使命という面では違いがあります。弱者には特別配慮するというのが人間という生きものに要請される倫理道徳の要なのです。

全てのいのちを敬うと同時に重症の身体障がいを負った一人娘のいのちを至極至誠とおしむ塩澤ご夫妻の終始一貫した「敬命愛生」の生活実践に胸を打たれました。どちらか一方に徹した事例は稀にみられます。しかし両方を両立両全させるといふのは至難の業

第1回 いのちの森 哲学散歩を終えて(その1)



金 泰昌
(公共する哲学をともにする会)

塩澤夫妻の敬命愛生の心魂は森の中にあらわれる動物たちにも感応を起こして、うつくしい人間と動物の共生を実現しているというお話も聞いて感銘を受けました。そこには現代社会の功利主義的自然破壊とか動物殺戮による人間と動物との敵対関係とはまったくちがう生態系が出来上がったというところでもありますね。

世界を広く回ってみますと、動物と人間の美しい共生共感関係が言われることがあります。例えば、

災害にあつた人間を危険を顧みず献身的に救い出した犬の話とか、偶然密林の中に落ちた赤ちゃんを、お乳を飲ませながら育てた狼の話とか、野生の動物と人間との深い友愛関係を見出したことがありますが、この森の中ではそれよりも身近な人間と動物のいのちの活かし合いが現実にあるという話をお聞きしました。これこそが「いのちの森」という名称に籠められた真意ではないかということに改めて実感しました。

エリックソンの娘さんの 厳しい批判

人間社会が本来の倫理道徳という天与の使命を捨てて弱肉強食、優勝劣敗の生き方になつていくという具体的な事例をお話しいただけますか。

金泰昌 エリック・エリックソンというアメリカの世界的に著名な



心に魂に届いてくる金先生との哲学対話

精神医学者がいます。日本でも広く知られています。エリックソンは一人の人間が新しい何かを創造するという個人の獨創性よりも、我々の前の世代がやってきた善き行いや文化や言葉を次の世代へと如何にして伝え継承していくかが重要なのだと主張しました。そしてそのキーワードとして「世代継承性」(ジェネラティブティ)という言葉を作ったのです。それは一人は勿論、一世代が獨創する未来を一方的に強要するのではなく、世代間未来共創を重視するという考え方でわたくしも深く共鳴するのです。

女性的靈性と 男性的靈性の違い

——世界的に有名な父親の指導の下で大人になつた娘さんが、父親を「偽善者」と厳しく批判するとはた大事ではありませんか。

金泰昌 実はエリックソンという人はオーストラリアからドイツへ移りアメリカへ亡命した人なんです。それで結婚して子供が出来たのですが、最初の子供が、身体障がい児だつたのです。言つてみれば、アメリカの厳しい競争社会で生きる条件が揃わないで生まれてきた子なのです。エリックソンはどうしたか。

他の子供に影響を与えるので障の存在になる。子供がこの一家全体を暗くする。アメリカの競争社会では到底生きて行くのが困難である。だから、それよりは、家族全体の為に、エリックソンはこの身体障がい児の存在を無視ものと決めて、夫婦が相談して合意して収容の施設に送り込んだのです。存在しないことにしたのでした。

そのような事実を家族全体が後に知ることになりました。息子さんは、やっつていいということではないけれど、しかしやむをえない選択だったというくらいで容認したんですね。

しかしエリックソンの娘さんは、「自分の父親であつても、これは断固許されない。一つのいのちを粗末にして、他のいのちの幸福を実現するなんてありえない。自分の不幸の根源は結局そこにある。世界的にどれだけ有名であろうと、自分の父親がやったことは、人間として許されない。それは別に父を憎むということではない。人が人としてやるべきことを忘れても「あの偉大な先生のことだから」と大目に見るなどということは、絶対に認められない。そういう意味で、自分は父親であるうと誰であるうと糾弾する」と言い切りました。

わたくしは、ここに女性的靈性と男性的靈性の違いを感じたのです。

表面の善美の裏で弱者を隠蔽する良にはまつたのは、実は、エリックソン一人ではないはずなんです。わたくしは一人ひとり、娘さんの父エリックソンに発した告発の叫びを、自分自身の良心に、自ら恥じるところがないかどうかを省察すべき時が来ているのではないのでしょうか。

——今話したいだけのこと、宮澤賢治が『農民芸術概論綱要』で「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と言つたことと通底していると言えますか。

金泰昌 それが絶対的真理のようには思っている人が多いと思いませんか。

しかし、「それは全体主義に変質する可能性がある」と指摘する人がいます。わたくしもその批判に与します。

ではいつになったら世界ぜんたいが幸福になるのでしょうか。そこには(幸福に向かう)出発点がありません。

これのみを真理として振りかざすと、抽象的な空理空論になります。

世界全体が幸福になるために一人ひとりの不幸はやむをえないという考え方になりかねないからです。エリックソンの息子がやむをえないと認めた社会通念になつてしまっています。

早稲理さんというかけがえのない「一人のいのち」を大切にするために、やむを得ず或る意味で全体のことを顧みないことがあつたとしても、それは決して「全体のため」という考え方と矛盾するものではありません。全体と個体の二つがセットになつて初めて、安藤昌昌が唱えた「活真性」が活きた真として成り立つとわたくしは思うのです。

——ありがとうございました。

哲学散歩のご案内

～公共する靈性の哲学対話を新たに始める・いのち輝く哲学の森と一緒に哲学散歩をしてみませんか～

第2回 8月13日(木)～16日(日)

第3回 10月2日(金)～5日(月)

ガイド: 金泰昌 先生

申込み・お問合せ: 財団事務局まで (P1参照)

金泰昌(キムテチャン) 一三四年、韓国忠清北道出身。主な日本語著書に『幸福の思想』(GEC出版、同新版)、『公共哲学』全三巻(東京大学出版会)の編者。各巻の表題は1「公と私の思想史」2「公と私の社会科学」3「日本における公と私」4「欧米における公と私」5「国家と人間と公共性」6「経済からみた公私問題」7「中間集団が開く公共性」8「科学技術と公共性」9「地球環境と公共性」10「21世紀公共哲学の地平」11「20巻は各々」自治「法律」都市「リーダーシップ」文化と芸能「宗教」知識人「組織経営」健康・医療「世代間関係」から「考える公共性」。「物語論」(全三巻)、「公共する人間」(全五巻)、「公共哲学を語りあう」(ともに公共哲学する)。(いずれも同出版会) ほか多数。

ある学生さんのレポート

近頃、新聞などで、若者たちの殺人事件などを見るたびに思うのは、加害者の心の奥底にどんな寂しさが秘められているのだろうかということ。『愛に飢えてい』と題して。

最近ある看護専門学校でのレポートの題として

- ①自分はどんな人生を生きたいか
- ②患者さんにどう接していくか
- ③自分を育ててきてくれたもの

書き出しは「①まず自分を育ててくれた親に感謝して、たくさん親孝行したいです。自分をこまめに育ててくれた学校の先生や親や周りの人達で、自分を変えてくれた人たちに感謝の氣を忘れないことです。…」ところがその親といたのは本人が子どもの頃離婚していたのです。③で彼はこう書き

「僕は親がかりこんでいます。馬場先生が書いた本のなかにもあったけど、不良少女の話がありました。僕が小さい時、お金のことで親がよくケンカして、僕はその時いつも家のすみっこで泣いていました。周りの家の親はお金のことでケンカしないのがすごくうらやましかった。僕がかいていとおもしろくなかったので小学校の時から友達とケンカをしたり友達のことをこわしたりしては親が先生におこられ相手の親にあやまりに行ったりしていました。先生の本に書いてあった少女は愛情が欲しかったから不良になつていろいろのことをしたんだらと書いてあった。その話はこうです。

「不良少女」京子

…ある女子高校に「不良少女」



とラベルを貼られた○○京子がいた。放課後街の盛り場に出て刃物をちりつかせオドシタカリをする4人組の長であった。そこへ招かれた新任の太田俊雄先生は、話を聞き、「それには何か訳があるに違いない」と、毎週3回自宅の「お手伝いと二人の子供の遊び相手」を頼み、何一つ責めず毎回「ありがと」をくり返した。

連載 日本の現状と将来を思う いのちの尊さとその発揮への道 愛に飢える魂

第二回

馬場 俊彦
(名城大学名誉教授)



先生たちとの出会い

「僕もその本を読んでから、あの頃は親の愛情が欲しかったんだらうと思っていました。でもか?!とまわつた時、先生は「京子さん、あなたは誰からも愛されていない、信頼されていない、ないと思ってるんだね。でも僕は信頼してるよ」と言った。京子は一瞬シーンと静まり返つたかと思つたら突然大声をあげ号泣し始

め、「先生、すみません」を繰り返しながら泣き続けた。その日以来京子は、全校教師が驚くほど人柄が変わつた。実は京子は自分が2歳の時母親が家出し、父親は次々と別の女性を家に入れ続けた。彼女は2歳から愛の飢餓状態にあつたのだ。その彼女が、今「どんな悪い子でも決して見捨てない太田先生の無条件の愛」に出会い、大安心の中で、内に秘められていた仏性・神的生命が目覚め噴出し始めたのだ。『ほん』の自分』上233頁以下。彼は続けます。

した。おれの悪いところも言ってくれ、そして何よりも相手の悪いところも言ってくれた。そのK先生やS先生やY先生がはじめていい先生に思えました。

あるとき僕はK先生によばれました。K先生は「どうしてわるきをするの」と聞きました。僕は家庭のことを話しました。親がよくケンカをしていたのでおもしろくないから、勉強もつまらないからわるきをしていたほうが楽しいからわるきをしています。親がよくケンカをしてくれました。おれは先生から話を聞いてくれました。その時すごくうれしかった。それからはK先生にいろいろと話をしていました。

またY先生は国語の先生だったのでとくに漢字を勉強しようと言いました。そしてなんと小学校の高学年の漢字プリントを持ってきました。その時僕はこの先生はおれをバカにしようと思つたけど小学校の漢字でもあかんところがあり自分の漢字のできなさにびつくりしました。そして国語の授業の時は漢字プリントを僕だけやっていました。

そして中学3年生の時僕は高校に行きたくなか全くなりませんでした。でもK先生やS先生やY先生に高校に行くと言つてしまつたので、僕は約束を守らないといけないと思ひました。Y先生は高

新しい人生への眼覚め

「自分がどんな人生をいきたいかは、国家試験を合格して看護師になり、いろいろな患者さまの不安や心配をしつかり聞き、少しでも不安や心配が無くなるようになる看護士の人生を生きたいです。なぜそんな人生を生きたいかという、僕が高校2年生の時、中学からの大親友が部活中にけがをしてしまい入院することになった。すると他のメンバーより実力が落ち、退院してから練習をたくさんしても他の人との差はなかなかちぢまなくてレギュラーから落ちるので、すごく落ち込んでいま

した。僕は親友を助けることができなくてすごくやしかった。でもある時大親友は元気がなつていたのでふしぎにおもいました。なぜかと聞くと、看護師さんから元気をもらったんだよって言いました。この話を聞くまで看護師は患者さまの病気をなおすようにてつたつていただけだとおもっていました。大親友は「看護師さんは、世の中たくさん人間は壁をのりこえなければならぬんだよ。でもね、その壁をのりこえないときは友達や親や周りの人に助けをもらえばかならずのりこえられるんだよって言ったんだよ。僕は今壁に向かっているんだと気づいた。それをのりこえればきつといいことがある。今のようによろしくずしておれなれないと思つたら元気が出た」と言いました。そして大親友はたくさん練習をしてレギュラーになり、全国大会に行きました。その看護士さんの声がなかつたらそんな元気が出なかつた。看護師さんは患者様の病気を治療するだけでなく、心のケアもしてやるんだと思ひました。心配なことがあるだけで患者様の身体に影響が出るので、できるだけ話を聞いてその不安が少しでもなくなるようにケアできる看護士の人生を生きたいです」(課題②への答)。

大変化への鍵は?

この大変化の鍵を確認するならば、まず第一に、三人の先生たち

との出会いでした。「悪い子」ときめつけず、時間をも惜しまず我を忘れたように一生懸命に、話をじっくり聴き自分の気持ちを分ろうとしてくれる愛(こんな自分を大切に思つてくれる気持ち)そして懸命に助けてくれる愛との出会いでした。

第二の鍵は、患者の心の看護までをする「愛に生きる看護士」との出会いでした。この二つの出会いを通してこの青年は、「出会う人の心の悩みをじっくり聞き心の看護のできる看護士になろう」人の役に立ちたいという生きがいの人生に眼覚めたのでした。今、世の中で、この人たちの存在は大きい! 少年たちの非行暴行だけではない、いい年ごろの、また社会的に地位のある親の子の不可解な殺人事件、またテロ事件など、みな加害者の心の奥底には、満たされない思いがある。それは

「自分の気持ちを分かってくれ、自分でも気づいていない自分の良いとこを教えてほしい、欠点だらけでも、それを責めずに許してほしい、いや、欠点も見方を変えれば長所とも見れることを教えてほしい」愛と信頼への飢餓・自分の全存在を肯定されたい思いではないでしょうか。人間をただ表面だけで見て、「悪い子」と決めつけるのは大変恐ろしい間違いだと思ひます。私馬場自身もお出会いするお一人お一人の深層の尊さを深く見え、絶対的な畏敬の念を持つて向き合つていきたいと思ひます。

ばはとしひこ 1932年岐阜県に生まれる。1951年東京大学哲学科に入学。出世競争に驚き文学部哲学科に転進。修士修了するも博士課程不合格。前途に絶望。ある夜自殺寸前から立ち上がり、以後不慮な人生の展開を経験。1966名城大学就職。理工学部で英語・哲学担当。同大学大学院総合学術研究科・経営学研究科、また愛知医科大学看護学部で人間学を講義。現在名城大学名誉教授。

個人・企業・団体の社会貢献に支えられてきた

「いのちの森文化財団」

「いのちの森構想」

ご支援ありがとうございます。これからもよろしくお願

「いのちの森文化財団」および「いのちの森構想」は、これまで、多くの個人・企業・団体の方々のご寄附及び社会貢献活動に支えられ、物心両面のご支援をいただき、この度の施設取得を含め現在に至るまで事業をさせていただいてきました。改めて、御礼申し上げます。ご寄附・ご支援いただいた方々をご紹介します。紙面の都合上、前号と2号に渡り、(今回は個人の方々を中心に)ご紹介させていただきます。(敬称略・50音順)。これからご支援のほど何卒よろしくお願いたします。

青山とし子/赤間美香子/秋葉幸良/宏子/明村禮子/麻生みさ子/雨宮美津子/荒川靖/荒川友美子/荒木直子/有賀都深子/有村純一/主子/安藤順一/厚地えり子/五十嵐英子/五十嵐紀久子/生藤和子/石井チエ子/石川亨/和美/石川得子/石川久代/石原彰子/石原勝成/多美/石原健一/板倉貴恵/市川尚美/市川典正/市村章一/博子/市村康子/井出美美子/伊藤すみゑ/伊藤勇来子/いとう有紀/伊藤るみ/稲川良夫/稲森節子/井上弘寿/猪熊憲作/岩崎誠治/由貴/岩沢和子/今泉志津子/岩淵一美/岩淵けい子/上野景子/上野裕子/植村啓子/植村順一郎/淳子/上本有岐/内田明子/宇野厚子/梅澤多賀子/梅澤雅之/淳子/江口とし子/榎田俊幸/淳子/遠藤奈央子/大井晃子/大江亜紀香/大石正子/大久保寛/愛子/大久保正子/太田はる江/太田寿美/謙司/大友なほみ/大谷健/太田好美/大野金三郎/フミエ/大西賢典/大橋慶一/大村真由美/大森鈴子/大智智子/大山茂/岡幸子/岡庭和子/岡田さな/緒方昭広/加奈子/小川奈津美/小川克昌/奥田恵子/奥野みさ子/奥村研三/由美/奥村富子/長田元行/千恵子/小高由美子/小竹えり子/小塚満野/小野瀬

雅子/小野澤昌子/小野村昭治/茂子/かおる&ヘルカーン/貝谷嘉彦/香川和代/梶木一郎/柏井喜代恵/片上艶子/春日久子/葛野幸子/金田浩人/金村桂子/金山恒治/京子/上林稔/敏子/上村真市/加藤妙子/神谷真美子/菅嶋真寿美/辛島薫子/川辺美和/川口和子/川崎容子/川俣文男/川又文男/和子/河邑環/川村亨子/川本陽子/菅野茂/敦子/北村木の実/金泰昌/木村千恵子/木村桃子/久間祥多/久恵/金秀成/草野澄江/工藤美智子/工藤美恵子/久保村由樹/真祐/熊野斐子/倉持彰/礼子/倉金博/黒井哲司/黒田敏子/桑田まなみ/倉内貴史/小池敬明/小泉隆/恵子/河野真理子/国分幹雄/小高由美子/小竹えり子/小塚満野/古梅智己/里美/小林明英/小林あゆみ/小林薫/小林計正/小林茂きみ子/小林千恵子/小林良彦/多江子/小林夕香/小林美紗子/小林千紘/小松美幸/小松佳寿子/齋美智子/西條明子/斎藤誠/榊芳子/榊原富喜/榊原メロディ/坂口由香/佐々木剛/佐々木尚美子/句坂秀子/句坂多恵子/左治木順子/佐久間美歩/佐藤慎一/陽子/佐藤忠男/都志子/佐藤真弓/佐藤理恵/塩澤國彦/柴田素子/柴田ひかる/志村寛隆/篠原孝よしみ/下川和枝/嶋田浩明/繁田忠男/白石節夫/志村翠/重岡寿美子/神保幸子/杉岡津岐子/杉中淳子/杉原朝子/杉山三知子/杉山由紀子/洲崎一雄/鈴木重平/佐代子/鈴木信雄/友美子/鈴木陽子/鈴木了平/鈴木紀行/須田育/須藤美津子/須藤みどり/関口順/なな子/ロバート&すみ子/セルツナー/鷹巣理英/瀬戸いく子/添田廣子/相馬玲子/寒川起佳/高野貞子/高野道隆/高橋伸生/高橋久枝/高橋美香/高橋登代子/高村純子/竹内真弓/竹内陽子/竹内庸/竹折修一/瀧川松子/谷口恭子/竹原瑞穂/武田繁典/田島三千雄/章子/多田千寿子/多々内美知子/高橋路子/高梨光太郎/立花幹也/巽俊也/田中昭/田中仁/田中栄一/利恵子/横子/田中しのぶ/田中友美子/谷川俊太郎/谷藤れい子/田原敏明/田村美帆/陽子/田巻聡子/俵里英子/但場章子/千葉明子/千葉克人/由紀恵/塚本安子/佃直子/辻久子/土屋陽一/筒井健雄/堤邦枝/美奈子/寺内研吉/徳田節子/徳田範子/戸部幸与/富田尚治/友野恵子/友野由希子/中健次郎/暢子/永井勝利/長尾絹江/

長岡孝子/永松綾/永富康修/中島幸子/中島真理子/中田融/中津陽子/中西俊介/中西真知子/中本篤宏/寿賀子/中村絵里/中村茂子/中山典明/奈良聡/詠子/西尾欣光/西田春代/中川悦子/中川一広/中田融/中野義二/濁川博子/西田春代/西村清子/西山博幸/能見登志恵/野口平正/野口正之/野田雅夫/橋本純/鶴島正子/羽賀紀子/萩原春代/萩原裕子/初鹿野ひろみ/長谷川淳子/橋本昭けい子/濱田正貞/早川孔惟/恵美子/早坂みさ子/長谷川順子/長谷川由美/馬場俊彦/林陽子/原三根子/原洋子/春田和子/半田守孝/平川慶子/平塚由利子/平野恵美子/平林廣美/平松葉麻子/比屋根米子/廣瀬玲子/深川武夫/深沢一政/福岡敏子/福重久子/福瀬くに子/福田克子/福田君子/福原小夜子/福本美和子/福山健生/祐子/藤井幸子/藤井須美子/藤原純子/藤原卓哉/藤本卓/船坂孝江/古川美智子/古屋昌枝/ブレンダ/デビス/星野精助/星野芳子/星野由利子/細谷幸平/堀内章秀/堀真知子/堀本志乃/堀口均/堀口友子/本田八重子/前田勝彦/千壽子/恵/前多義明/牧野克彦/増田稔/美美/間瀬能弘/愛子/松井千恵子/松川栄一/松下則子/松本伸一/丸田優子/丸山孝一郎/丸山信幸/丸山秀雄/見海千鶴子/三ツ井久美子/三井高輝/水谷彰宏/三谷晃一/三島丈英/峰岸志津子/宮川茂子/三村靖子/宮内照子/宮崎ますみ/宮澤誠/宮島基栄/歌子/宮島基行/宮本滋子/宮本早苗/三好佳代子/村井恵子/村上進/村上隆平/望月勇/百瀬由美子/森崎裕治/守屋利江子/八木淑子/八木橋すみ子/安部恭子/谷田部典昭/柳澤嗣子/矢野久美/矢野みさ子/柳沢由紀/矢部なおみ/山川亜希子/山川宋玄/山口正男/山崎則子/山崎瞳/山崎真由/山下美紀/山下啓一/真美子/山下洋子/山下啓一/山田幸子/山中章子/山野邊暁/山野辺澄子/山本千恵子/山本三代子/山本公一/由良まさ子/湯川れい子/湯村芳則/横田徳子/横山政美/吉崎彰一/吉谷靖/吉田利直/吉田美佐子/吉田龍恵/吉田紀子/吉田邦敏/吉武誠/和枝/芳村思風/吉村富雄/石子/吉村美恵子/米内山幸孝/米澤雅子/寄園誠司/淳子/若槻典子/鷺巣理英/鷺尾輝一/正子/鷺尾智恵子/和田千代/渡辺久美子/綿引浩子/綿引芳朗/千寿子/

2015年 いのちの大学講座 (学長 帯津良一・副学長 巽信夫) ~人生をよりよく生きる~

「いのち輝く哲学の森でともに哲学する旅」ガイド 金泰昌先生 (公共する哲学をともにする会) 2015年 8月13日(木)~16日(日) 10月2日(金)~5日(月)

【前回の参加者の感想より】 自然の中の散歩や朝の樹林気功、一日二度の体にしみわたる食事、それらに間にはさみながらの哲学対話。一日一日とことばが魂に深く届いて来、またそれが静かな夜の間に成長し、夜明けとともに魂から自然にことばが湧きあがる、そんな、生まれて今まで一度も体験しなかったような、あるいは長い長い間忘れていたような、まさにいのちのいとなみを全身全霊で実感する貴重な時間を過ごさせていただきました。(R・K)

「養生塾 ~体の養生 心の養生 食の養生~」講師 帯津 良一先生 (帯津三敬病院名誉院長) 2015年 9月4日(金)~9日(水)

「いのち学」講師 帯津 良一先生 (帯津三敬病院名誉院長) 2015年 9月4日(金)~9日(水)

「生老病死のホメオパシー講座」講師 帯津 良一先生 (帯津三敬病院名誉院長) 2015年 7月31日(金)~8月2日(日)

「心の病とやさしい心理学」講師 井上 弘寿先生 (精神科医) 2015年 10月17日(土)~18日(日)

「脳と心の勉強会」講師 久間 祥多先生 (脳神経外科医) 2015年 11月7日(土)~8日(日)

「心の探求 ~般若心経の真髄をひもとく~」講師 宮島 基行先生 (高野山真言宗阿闍梨 南山進流声明第一人者) 2015年 8月28日(金)~30日(日)

「気功合宿」講師 中健次郎先生 (気功家・鍼灸師) 2015年 Aコース 9月19日(土)~21日(月祝) 2015年 Bコース 9月21日(月祝)~23日(水祝)

「香り癒しのセラピー体験講座」2015年 7月17日(金)~19日(日)

「飯綱山登山体験講座」2015年 6月19日(金)~21日(日)

「いのちの料理教室」2015年 6月26日(金)~28日(日) 8月28日(金)~30日(日) 10月16日(金)~18日(日)

「いのち輝く農実践講座」2015年 6月26日(金)~28日(日) 7月17日(金)~19日(日) 8月7日(金)~9日(日) 9月25日(金)~27日(日) 10月30日(金)~11月1日(日)

「集中内観セミナー」【随時開催】 面接 塩澤 研一 (日本内観学会会員)

「リーダーシップセミナー」【随時開催】 講師 塩澤 みどり (いのちの森文化財団代表理事)

「青少年育成・自立支援個別相談事業」【随時対応】 相談者 塩澤 みどり (いのちの森文化財団代表理事) アドバイザー 巽 信夫 (前信州大学医学部助教授)

「いのちの森の学校」【随時受入】

「シーズンチャレンジボランティア」【随時開催】 長野市社会福祉協議会主催のサマーチャレンジボランティアへなどへの協力、田んぼ&自然農体験ボランティア ※詳細はお問い合わせ下さい いのちの森文化財団事務局 TEL 026-239-0010 ※日程は変更になることがあります

公益財団法人いのちの森文化財団では

以下の公益目的事業への寄附金を募集しています

- ①「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
②「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
③「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動(保育園へのお野菜支援含む)」
④「いのちの森の会費(一般寄付)」

※当財団への寄付金及び会費は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄付金控除の対象となります。(詳細はお問合せ下さい)

【ご支援の方法】
▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄付先①~④をご記入の上、お振込み願います。
▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話(1ページ目参照)にて寄付先①~④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

- 【お振込み先】
●ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181
●八十二銀行 本店営業部 普通 1093531
●みずほ銀行 長野支店 普通 1991794
いずれも名義は「公益財団法人いのちの森文化財団」



新施設竣工祝賀会での塩澤みどり代表理事挨拶の様子